

ビオトープでのアメリカザリガニ駆除

はじめに

自然ふれあい情報館には斜面林と小さな池や水路、田んぼで構成されるビオトープである「自然園」が併設されている。来館者にかつての北区の自然環境に触れて頂くため日頃から管理を行っているが、平成 15 年度より自然園内でアメリカザリガニ（以下、ザリガニ）の生息が確認されるようになった。翌年からハスやスイレンが咲かなくなる等の水草類への悪影響が見られ、現在もアズマヒキガエルの幼生（おたまじゃくし）の捕食、水田に稲の根の食害や畔に穴を開け田の水が抜ける等の被害が確認されている。

そうしたことから平成 17 年度よりザリガニの駆除を目指した取り組みを行ってきた。

駆除の方法と効果

駆除は基本的に池や水路にトラップを設置して行っている。網状のカニ籠、筒状の穴子・どじょう用の籠の他、暗い所を好むザリガニの性質を利用した塩ビ管、麻ヒモをホウキのように束ねて水底に沈め隠れた小さな個体を捕獲するなど、様々なトラップを設置している。これらは季節や気温、水温にもよるが一定の効果を得られている。



網かごトラップ
(筒型・小判型)



プラスチックトラップ
(ドジョウ用・ウナギ用)

また魚捕り用の網や釣りなどを用いた、人力による捕獲も行っている。これらは人的コストの面から定期的に行うことは難しく、捕獲技術による差も大きい。しかし特に釣りは多い時には 3 名 2 時間で 81 匹捕獲できる（特に大きな個体が多い）など、自然園では比較的有効な手法であることがわかってきた。

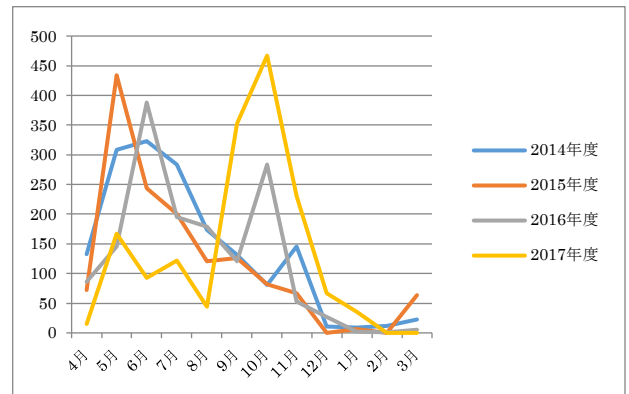
これらの継続的な捕獲によりザリガニの増加は抑えられてきた。しかし捕獲数が横ばいであることから個体数減少には至っていないこと、ある程度生息数を安定させる「間引き」として機能している恐れがあることから捕獲数の大幅な増加が必要である。



釣りで捕獲したザリガニ

新たな取り組み

そこで試験的に導入したのが、ザリガニの誘引力が高いと言われる「コイの餌」。それまでトラップに設置する餌は捕獲したザリガニのむき身を利用していた。平成 29 年 9 月末よりコイの餌に変更した所、その直後の 10 月は過去 4 年間の月毎の捕獲数で最多の 467 匹となり、効果がある事がわかった。



2014 年度～2017 年度の捕獲数の季節変化 (暫定版)

ザリガニの生息数ゼロを目指して

ザリガニ捕獲のための手法は全国各地で研究されている。それらの情報を収集して様々な手法を実験し、これまでの経験から有効性が見込まれるものと合わせて実施していくことで、捕獲数の増加につなげていきたい。

北区立 自然ふれあい情報館
指導員 椎名明日香、高橋利行

